

平成31年3月28日

(あて先) 熊本市長

団体名 ことう文庫の将来を考える会
代表者 職名 会長 氏名 吉朝 潤子 印

熊本市市民公益活動支援助成金実績報告書

平成30年4月1日付け指令(地活)第1-15号により、熊本市市民公益活動支援助成金の交付決定を受けました事業の実績について、熊本市市民公益活動支援基金実施要綱第20条の規定により、関係書類を添えて下記のとおり報告します。

記

- 1 助成事業名 「ことう文庫の本がみんなの居場所です」
- 2 助成事業の実施期間 平成30年4月1日 ～ 平成31年3月26日
- 3 助成事業の内容
ことう文庫が持っている、子どもの心に寄り添い、生きる力を育む本を中心に置いた事業を行いました
①本の紹介データベースを作り、本の良さ、本の力を発信した。
②毎週の開館時に行ってきた工作や体験についても、データベースを作り、発信した。
③多世代交流事業も、本を中心に置き、お気に入りの本を紹介しあう形で行った。
- 4 事業の成果
平成30年度の文庫開館日数は39回であり、のべ利用者数は、小学生468名(平均小学生利用者数1回13人)、大人239名(平均大人利用者数1回6.1人)、貸出冊数640冊(平均貸出冊数17.7冊)であった。
平成29年度の利用実績、小学生509名(平均小学生利用者数1回12.7人)、大人259名(平均大人利用者数1回6.3人)、貸出冊数(平均貸出冊数23.6冊)と比べると、小学生と大人の利用は、昨年並みと言える。貸出冊数については去年に比べ減っている。文庫が本を借りるより、お話を聞く場、工作や体験に参加する場、地域の友達と集う場、子どもの遊びの中継地点、大人にとってもコミュニティの場として機能し、認知が広がったと考えられる。
本の紹介データベースづくりと工作や食育体験のデータベースづくりが貸出冊数には反映されなかったが、安定した来館者数があることがわかり、少しずつ文庫の存在が認知され、地域住民からの信頼を得ていると感じる。
また、町外からホームページを見て来館する親子のケースもあり、データベースを作った文庫の活動内容の発信を充実させたことにより、新規の来館につながった。
多世代交流事業で行なったbook cafeも好評で、当初2回の計画だったが、3回開催することができ、大人にとっても本を通して心の交流をしながらコミュニティを育む場となった。

※補足： 平成31年3月22日でことう文庫は開館40周年の節目を迎えました。健軍第6町内会自治会が、長年にわたって、ことう文庫の支援をはじめ地域で子育てをすることに理解と協力を継続してくださったことに心から感謝いたします。このことをもっと価値のあるもの、地域の誇りを持てるものとして、これからも大事にし、発信をしていきたいと思っています。

5 助成事業の実施状況

- (1) 事業収支決算書（様式第16号）
- (2) 事業の経過又は成果を証する書類等
- (3) その他参考となる資料

事業報告書

実施年度	平成30年度
事業名	「ことう文庫の本がみんなの居場所です」
事業期間	2018年4月1日 ～ 2019年3月26日
事業の目的	目的① 子どもの心に寄り添い、生きる力を育む本に出会う機会を増やす。大人も本に出会いながら住民同士の交流促進につなげる。 目的② ことう文庫にある本を使って、ママ層、高齢者層、若者層を巻き込んでコミュニティづくりを進め、住民が居場所として感じられる存在になる。 目的③ 地域をつなぐ役割としての文庫が住民に認知され、今まであまり地域に関らなかった層の人にも地域の担い手としての意識を持ってもらう。
具体的な事業内容	➤ 4月-7月中旬 - 蔵書整理（4月） 近隣の、閉館される文庫からの寄贈本や新しく購入した本の整理、表示タグの付け替え、未返却本の連絡など。子ども会との連携によって、町内の小学生がいる家庭の連絡用メールアドレスを集める。 5/12（土）「お見知り会」を子ども会と共催で開催。町内の子どもたちとその親に文庫を紹介。 5/19（土）より土曜日10時—12時の通常開館開始。 お話の時間、本の貸し出し、工作、食育などの体験メニューも同時にスタート 6/8（金）第1回Book cafe開催。好きな本を持ち寄って本を紹介したり、様々な世代の方々が交流する会。参加者12名。 ➤ 夏休み特別開館（7月23日～7月26日の4日間、10時—12時） - 夏休みの平日の昼間の時間の開館。講師に町内に住む方をお迎えし、パネルシアターを楽しみました。通常開館時と同様にお話の時間と工作・体験の時間を設け、宿題タイムも実施した。 ➤ 夏祭り参加（7/28（土）） 昨年度、借りた冊数が一番多かった子どもをステージで表彰。またことう文庫として出店。コロッケバーグ販売。地域の方々に文庫の存在をアピールした。 ➤ 夏休み特別開館（8月25日 10時-12時） 夏休み中の特別企画として、パン作り体験を行った。参加者子ども12人、大人5人。初めてパン作りを体験した子どもが多く、盛り上がった。 ➤ 9月—12月 9月1日（土）より通常開館再開。土曜日は10:00-12:00。 お話の時間、本の貸し出し、工作、食育、手仕事などの体験メニューも継続。 10/26（金）第2回Book Cafe開催。6月のBook Cafeからのリピート参加者が多数。多岐にわたるジャンルの本が紹介された。参加者は9名。 12/15（土）文庫大掃除。 12/26（水）冬休み特別開館 外部講師を招いてしめ縄作り ➤ 1月—3月

	○ 1月7日12時～15時。初めての小学校が給食なし午前授業の日の午後の特別開館。七草粥づくり。 ○ 1月26日より通常開館再開 ○ 3月19日12:00～14:30。2回目の小学校が給食なし午前授業の日の午後の特別開館。だご汁づくり。初めて大学生ボランティアに来てもらう。 ○ 3/20（火）第3回Book Cafe開催。湖東中学校お話ボランティア9名が参加。 ➤ その他の活動 ○ 新しく搬入された本の処理（ラベル貼りなど） ○ 日本の絵本・外国の絵本約1000冊のデータベース作り ○ 季節にあったテーマごとの本の面出しレイアウトの実施と、それらの本の紹介データベースを作成。それらをホームページで紹介。 ○ 毎回の工作や体験プログラムの内容をデータベース化し、紹介。 ○ 毎月20日に回覧チラシ作成。町内回覧板で告知。文庫の開館時間、新しい本の情報テーマごとのオススの本を紹介。ホームページでも発信。 ○ 小学校を経由した情報発信。 ○ メールによる情報発信。 ○ ホームページで開館時の活動を報告 ※添付書類：利用人数（のべ）・貸し出し冊数リスト ※活動の様子はwebサイト参照 https://kotoubunko.jimdo.com
実施場所	熊本市東区湖東2丁目1-15 湖東公民館2F
事業の効果・公益性	リニューアルオープンから3年目の今年、毎週の開館時にお話の時間と様々な工作や食育体験の時間を設けたことによって、毎週平均で、約12人の子どもたち、約6名の大人が来館するようになりました。リピートしてきてくれる子どもたちや親子の存在が大変ありがたいです。 また、平日で小学校が給食なしの午前授業の日のお昼から3時までの時間に開館を試みたところ、30名近くの来館者があり、地域のニーズと、ご家庭がこれだけ多くの子どもさんを文庫に出してくださるという信頼を感じました。昼食を子どもたちと作っていただいた後に、文庫のお部屋や公民館のホールで遊ぶ時間には、本を読む子、宿題をする子、役割分担して遊びを作る子、異年齢の子どもたちが遊ぶ子の姿が見られ、文庫が閉館した後も子供達同士で遊びの約束をしている姿が見られました。まさに、子どもたちの居場所、遊びの中継点となっていました。 今年度の新たな事業である、本の紹介データベースづくりと工作や食育体験のデータベースづくりが貸出冊数には反映されませんでしたが、安定した来館者数があることがわかり、少しずつ文庫の存在が認知され、地域住民からの信頼を得ていると感じます。 また、町外からホームページを見て来館する親子のケースもあり、データベースを作って文庫の活動内容の発信を充実させたことにより、新規の来館につながりました。 多世代交流事業で行なったBook Cafeも好評で、当初2回の計画だったが、3回開催することができ、大人にとっても本を通して心の交流をしながらコミュニティを育む場となりました。
次年度以降の事業展望	安定した来館者があり、認知度と信頼度を積み上げています。しかし、子育てや地域活動のかかわる大人の人手不足は大変深刻で、私たち運営スタッフと子ども会のボランティアだけで継続的に開館していくことの難しさを感じています。 3月19日の特別開館で初めて大学生と繋がることができ、次年度以降も大学や

	大学生と関係づくりを継続しマンパワー不足対策を行う。次年度以降も以下の観点で活動する。 I. 高校生・大学生との連携を進めて運営力強化を図る。 II. 地域の様々な年齢層をつなぐ役割を担い、地域ニーズを把握して課題解決のための情報提供をする文庫を目指す。 III. 継続的に開館していくために、この活動に賛同してくださる方を増やす仕組みをつくる。たとえば、文庫の運営に興味を持った人が、少しの時間でもお手伝いに入れる、または、アイデアが反映されるシステム作っていきたいと思います。
事業への想い (当事業によってどのような熊本市にしていきたいか)	なかなか地域活動に参加できない大人たちの状況、6人に1人といわれる子供の貧困、独居老人問題など、地域の問題を一度に全部解決はできませんが、地域に少しずつ関る人が増え、ことう文庫がその器になればと思います。熊本市の中にたくさんの地域コミュニティ作りのグループができて、横のつながりができていくことで、安心して暮らしていける社会が実現できればと思います。

様式第16号(第20条関係)

事業収支決算書

項 目		金 額 (円)	内 訳
収 入	自己資金	12000	イベント会費 (BOOK CAFE会費)
		0	当該事業による収益
		3148	自己資金 : 夏祭り売上から
		55000	健軍6町内自治会より寄附金
	市民公益活動支援助成金	110000	当該事業に対する助成希望額
	その他の補助金・助成金	0	
	計	180148	✓
支 出	助成対象経費	人件費	
		報償費	23000 長期休暇の特別開館時の講師の謝礼、 その他お手伝いスタッフへの謝礼
		役務費	No.13・46・47・48・49・50・51・52・53・54・55・61
		使用料・賃借料	
		事務費	145181 図書購入費 108504円 No.1・2・5・6・7・41・42・43・44・45 印刷費 15230円 No.56・57・58・59・60 消耗品費 21447円
		旅費	
		委託費	
		その他	
		小計	168181 ✓
	助成対象外経費	イベント飲食材料費	11967 多世代交流事業「Book Cafe」飲食材料費
		小計	11967
	計	180148	✓